

到东京啦(๑•̀ㅂ•́)و✧

2017.09.07

东京的街景太亲切了(*~*~*)

和小时候住的地方有点像，

勾起了很多美好的回忆。(。>__<。)



剣道を体験しました！（^v^）皆は格好良い！（'∩'）

2017.09.14

もう三日間通学しました。昨日やっと剣道部を見学しました。学校からもらった胴着をつけて、期待に満ちて道場へ踏み入りました。

道場に入ったとたん、地響きのような叫び声に驚きました。生徒たちはキチンとして列に並んで、竹刀を手に持って、真剣に練習しています。皆の打ち合った力はそれほど大きくて、竹刀がお互いに打ち合った時、'バ!'と大きい音が出ました。ある練習は面を着けた頭で相手の攻撃を受けることです。この練習をしている時、生徒たちはぜんぜん怪我をする心配をせず、本当に'必死'の状態で頑張っていました。

私は初心者ですから、道場の隅に友だちの指導を従って、不器用に練習していました。突きは遅いし、素振りも遅いです。簡単な動作をするだけもう疲れました。それでも、楽しいと思いました。(๑'ω'๑)

今回の見学で、日本の高校生の部活に対する真面目な態度に感心しました。私なら、勉強の後でまたこんな元気満々に部活をすることはできないと思います。道場の皆さんの精一杯練習する姿を見て、"やはり興味を持てば、どんな困難も克服できる'と思いました。ʘ(∧∧)ʘ

P.S.集合写真の白い初心者服を付けた私は、武士の中に入った農民みたいですよ。@(・●・)@





これは日本語で投稿されたものです

学校初登校

2017.09.23

今度の日記は学校初登校をテーマとするので、実は初登校からもう二週でした。記憶を探して、初登校の情景を覚えて見ます；

朝、ラッシュに制服をつけて、かばんを手に掴んで、通学の道路に踏みました。

約十分ぐらいの道のり後賑やかな難波駅につきました。旅の観光客、通勤中のサラリーマン、そしてわたしたち通学中の学生は駅を込みますが、皆は整然として移動していました。最も印象深いのは、こんなに人の波の中でも、エレベーターに乗っている人は時を追いかける人のために、右に並んでいます。彼たちのおかげで、私はずっと歩いてエレベーターを登り、急行列車を間に合いました。

学校に着いたところで、すぐ朝礼が始まりました。生徒たちは広場に集まって、騒いでいました。秩序を保てるかどうか心配してる時、澄んでる音がマイクロソフトから聞きました。空気が突然に静かになる、先に騒いでる生徒も厳粛になりました。ステージに見れば、ある先生は拍子木を打って、経文を読んでいました。そして、生徒たちも従って、経文を朗読しました。百人ほど一致する声が響くことに少し震撼されました。

その後で、私は留学生として、スピーチを発表しました。文がうまくないでも、生徒たちもしっかり聞いて、もし私の意味を伝えられれば良かったと思います。

(書く時頭の中で何でもない、最後ただ事柄が羅列する文になりました(´；ω；`)

これは日本語で投稿されたものです

それぞれの化学の道

2017.10.11

それぞれの化学の道

化学というものは、名前の中で「学」を含むから、人に奥深くてわかりにくい感じを伝えている。でも、数千年前の古い時代から、人間は化学を利用して、酒を醸造することができた。それはただ「技芸」だったが、本当に化学をシステムの学問として研究することは、16世紀のイギリス科学者ボイルからだろう。

中国と日本は遥か遠い東亜にあるとあって、科学革命の爆発と関係がなかった。近代以降西洋の化学を学ぶには他ない。日本にきたばかりの私は化学のペンキょうが多分大丈夫と思った。この考え方違っているとすぐ証明された。元素の名前だけ違いがある。たとえば、元素Naは英語でsodiumと呼ばれるが、日本語でのナトリウムとぜんぜん違う。ケイ素も同じ、カタカナは英語と合わせない。

その理由は、明治維新の時、世界の化学中心はアメリカではなかった。周期表における上位の元素、つまり、早く発見された元素はドイツ語とフランス語の発音を翻訳した。また、化学が学問になる前に、色んな錬金術師はもう元素たちをラテン語でひょうきした。今英語とともに国際標準表記法はラテン語になっている。

ところが、中国は化学を引き入れる時に、すべての元素は一つの漢字で表記された。それは清の末に、徐寿という官吏は宣教師の手伝いで朝廷の命令を従ってラテン語から漢字まで翻訳仕上げたからである。こういうことが歴史の流れの中で曲折を経た。新文化運動の時、漢字表記の妥当性が疑問されて、廃絶の危機も一度あった。でも最後今まで残っている。

漢字で元素を表記することを疑問するの理由は主に国際学术交流を妨害するのではないかと恐れていた。しかし、エリートたちにとって、言語は問題にならない。言語の壁は交流の熱情を壊さない。それを信じている私は今一生懸命に日本語で知識を学んでいる

(最近、試験の準備のために、いろんな評論文を読んだ。その文風を模倣して書いて見たいを思っ、この文を書いてきた。(・v・))

これは日本語で投稿されたものです

教科書についての小さい感想

2017.10.23

「こんなことも化学基礎の内容マジかよ。」日本で初めて化学授業を受けた私はそう思っていた。学んでいたのは「化学結合」、特にわかりにくいのではないけれども、これは中国では理系だけの内容だった。その上、中国の教科書で最初に習う無機、有機物の性質は逆に日本で化学の最終のところにあった。こんなに大きいな違いは一体なぜだろう？

「化学結合」は確かに化学基礎に相応しい。物質は原子の間に色々な関力あってこそ、上手い多様性を現せる。それぞれの結合の構造を知ったら、分子の融点の高さ、安定性などの性質を解釈できる。つまり、ニュートン律の力学にとっての役割のようだ。そうしたら、なぜ中国の教科書はこれを最初のところに置かないのか？

それは化学自分の発展に関係があると思う。これは化学であるから、物理より発展の過程を維持している。まさにニュートンの墓誌の通り、「Let Newton be! And all was light」ニュートンの成果はクラシック物理の理論基礎になり、新しい時代を創始した。つまり、天才の理論に基づいて発展し続けてきた。ところが、化学は相反の道を歩み出した。

400年ほどまえ、フランスの科学者ラヴォアジエは酸素を空気から精錬した時、彼は「こいつは燃えることを促すことだ」としか知らなかった。酸素の酸化性質などいろんなことはまだ知らなかった。でもそれだけで、ギリシャから数千年の間ずっと公認された「燃素論」を覆した。世の中の万物は、「気、水、火、土」のような簡単な区分ではないということをもっと詳しく研究を次々と世に出した。

そして、成果を積むに連れて、元素周期表をまとめて、周期律によって新元素を発見するスピードが急に速くなってきた。でもこれまでの化学はまだ伝統的に、物質とその変化についてのことを定義することだけだった。本当に化学反応の本質を発見したのは1912年のころだった。面白いのは、この発見は量子物理学者の研究の一部だったということだ。

話は本題に戻る。そこからみると、日本の教科書は最先端の理論を使って学生たちに化学の骨組みを見せていると言えよう。だがそうすると、探索する楽しみ、それは初期の科学者の考えをベースに、日常のことから元素を発見し、まとめることの楽しさを失なうかもしれません。しかし、どちらでも、生徒の化学に対する興味を呼び起こせると思う。ともかく、今の私は「化学結合」の知識を用いて、前に中国で学んだ性質を解釈することを楽しんでいる。

これは日本語で投稿されたものです

部活の紹介

2017.11.14

日本に来る前に、日本高校の部活に強い興味を持っていた。だが、清風南海に入った最初の1ヶ月、学業を中心に、部活を楽しむことができなかった。「日本に来たらやはり部活のような日本特徴を体験しなければ残念でしょう」と思い、1日中ずっと勉強するのは結構疲れるから、運動でストレス解消したほうが良いという気持ちで、陸上部に入った。

陸上部の項目が多彩で、僕は有酸素運動の長距離走りを参加してみた。長距離とは本番な長い距離であり、学校のゲイトから浜寺公園まで三駅くらいの距離を往復走り、8キロもある。日本に来るまでに中国で3200mを毎週2回も走っていた故に、今度もチャレンジしようと思った。前半の走りは、本当に楽しかった。運動場で走ることと違って、街走りは絶えず新しい景色を見えることはとても新鮮。しかし、街走りに坂道とか回るコーナーいっぱいあるから、運動場で走るより体力に対する要求が高い。後半の帰路で足がふわふわしていたけれども、以前のトレーニングで鍛えられた耐力のおかげで、8kmを完走した。

その後の数日間、筋肉が痛かったけれども、元気よく、勉強の効率もずいぶん上がった。やはり適度な激しい運動は身体を興奮させることができる。勉強した後でこのようになりラックスは最高だと思う。

これは日本語で投稿されたものです